



## 「情報館」を導入して

松本 純子

### I. はじめに

住友病院に図書室が設置されたのは1968年頃である。以来約30年間、目録カードによる図書（単行本）管理が行われてきた。しかし、業務の合理化・効率化や省スペース化などを図る目的で、1998年からカード目録の作成および図書原簿への記載を中止し、図書管理をコンピュータに切り替えた。取り敢えず書誌データはExcelに入力しながら、図書管理ソフトの導入を病院に働きかけることにした。その後新病院の建設が決定し、チャンスは到来。

まず2社にソフトのデモおよび費用一式の概算書を出してもらい、情報システム室に資料を提出し、パッケージソフトの必要性を説く一方、図書委員会で導入に向けての対策を検討した。高額なものだけにシステム室の反応はにぶく、結局決め手となったのが図書委員の次の一言であった。「新病院への移転で図書室が平常どおりになるには時間がかかる。1年間単行本の購入を我慢してもらってはどうか」。利用者の理解と協力を得たおかげで、単行本の購入費でパッケージソフトが導入できることになった。

### II. 「情報館」の導入

2000年5月、ブレインテックの「情報館95」総合管理システム（スタンドアロン）が導入された。「情報館」に決めた主な理由は、デモによる印象（画面、機能、等）、ユーザーに医学系図書館があること、逐次刊行物（以下雑誌）

の各号受入から製本雑誌登録・管理ができること、蔵書の除籍ができることなどである。また担当者が交替しても支障が起きないように、サポート体制がしっかりしていることも重視した。

「情報館」にはオプションも含め数多くの機能がある。現在、当図書室が活用しているのは資料（単行本・雑誌・製本雑誌）の受入・管理・検索のみで、しかも単行本の5分の3は未入力という状況である。以下に導入から活用までの経過および今後の課題について述べたい。

### III. 導入から活用まで

2000年5月：スタンドアロンで利用する「情報館」用に、他部署で使用していたパソコンを設置してもらい、業者によるセットアップ・初期設定後、Excelに入力していた単行本のデータを「情報館」に取り込んでもらう。その後は、9月にオープンする新病院への移転準備～移転後の作業に追われる。

2001年6月：新病院で運用開始。資料データの入力を始める。①単行本：新規購入分からデータを入力していく。②受入雑誌タイトル部入力（各号を入力するにはタイトルの登録が必要）。③雑誌各号を2001年発行の1号から入力していく。

2001年9月：製本雑誌の登録。当図書室の製本雑誌原簿にあたるタイトル別登録シートから製本雑誌約9,500冊のデータの入力を始める。

2002年2月：2001年発行の和雑誌を製本に出す。業者の預かり明細書から雑誌の合冊処理。

2002年3月：業者から製本雑誌受入、登録処理。

以上が「情報館」導入から資料データ入力までの経過である。

なお、バーコードによる資料管理および貸出システムについても検討したが、導入にかかる経費や職員登録の問題など、すぐに解決できない事情があり実現していない。現在、雑誌は従来どおり受入日付印を押し、単行本・製本雑誌は宛名シールに登録番号をプリントしたものを表題紙に貼っている。

#### IV. 「情報館」による資料の管理と利用

##### 1. 資料データを入力する

図1は当図書室の「情報館」メニュー画面である。メインメニュー「発注・受入」、サブメニュー「資料データ入力」を選択すると、資料区分選択画面（単行本・雑誌-タイトル部・雑誌-各号部・製本雑誌）が表示される。資料の種類を選択しデータの入力・登録を開始する。図2は単行本の入力画面である。

##### 2. 資料を探す

メインメニュー「検索処理」、サブメニュー「資料選択」を選択すると、図3の画面が表示される。あいまい検索、前方・後方一致検索、AND・OR・NOT 検索、項目や資料の種類をまたがった横断検索など、目的にあった検索ができ、検索結果を一覧あるいはそのうちの1件を詳細に表示することができる。

##### 3. 蔵書リストの作成

図書目録・新着図書案内・製本中の雑誌リストなど、さまざまな帳票が印刷できる他、CSVファイル形式でデータを出力することもできる。現在、単行本のデータをExcelで開き、当院が導入しているグループウェア StarOfficeの図書室掲示板に蔵書リストを掲示している。

#### V. おわりに

スタンドアロンとはいえ、「情報館」は予想していた以上にさまざまな機能を備えていることがわかった。資料の貸出管理と利用統計、予算管理など、来年度（2004年4月）以降、活用

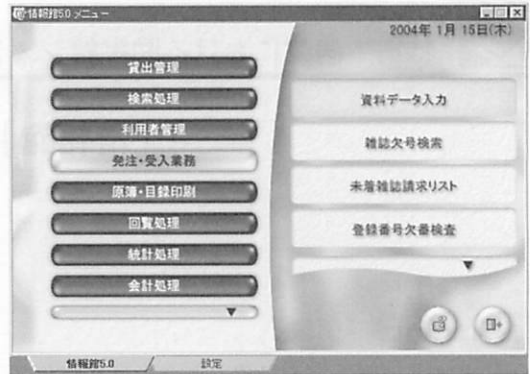


図1. 「情報館」メニュー画面



図2. 単行本入力画面



図3. 資料検索画面

する機能範囲を計画的に広げていきたいと考えている。また、当図書室の「情報館」使用マニュアルの作成も今後の課題である。

なお、「情報館」は2002年「95」から「5.0」へバージョンアップされた。